



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1151

06.04.2025 (136)

悪の天才の教育

ゲルハルト・ラウク 著

第17回

デンマークでの投獄

ロスキレ1995

最初に部屋を見たとき、私はショックを受けた。最初に気づいたのは、トイレがないことだった！シンクだけだ。つまり、共同のジョンを使いたいときはいつでもルームサービスを呼ばなければならないのだ。（私のことを少しでも知っている人なら、私がBSだらけだということを知っている。それゆえ、私は本当にジョンをたくさん使う必要があるのだ！）

次に気づいたのは、おそらく前の客が残したと思われるポスターだった。私はその若い女性にとっても同情した。彼女はとても貧しく、服を買う余裕もなかったのだ！私はそれを取り除こうとしたが、気が変わった。次の客が喜ぶかもしれない。彼女は可愛かった。

いい面もあって、小さなジムがあったのでウェイトリフティングを再開した。

このホテルはこじんまりとしていた。スタッフと宿泊客はすぐに仲間になった。夕方から数時間、お互いの家を行き来することもあった。ピザを注文したりもした！

ある若者のあだ名は「海賊」だった。彼は名家の出身だった。とにかくある日、彼はこの種の施設での無料宿泊を勝ち取ることが「クール」かもしれないと考えた。そこで彼は金融機関から型破りな引き出しをした。そして、ただ乗りを待つために正面の階段に腰を下ろした。奇妙な理由から、彼はすぐにこれは自分の好みではないと判断した。

その後、別のホテルで本物の海賊に会った！彼は海賊行為で有罪判決を受けていた。クリスチャン・ヴォルシュにそのことを話すと、彼はすぐにその名前に気づいた。彼は以前ホテルを訪れたときから彼のことを知っていたのだ。世界は狭い！

もう一人のゲストはロシアでの旅行経験が豊富だった。私たちは旅のヒントを交換した。

あるスタッフが面白い話をしてくれた。数年前、ある宿泊客が突然、勘定を払わずにホテルを出て行った。一年後、彼は別の客を訪ねて戻ってきた。

ある特別な日、窓の外から音楽が聞こえてきた。レジスタンスの曲だった！誰かが音量を大きくして通り過ぎたので、私はそれを聴くことができた。この心遣いは感動的だった。

コペンハーゲン 1995

このホテルはもっと広かった。多くの点で良くなっていたが、トイレはまだなかった。私たち宿泊客が朝、広い中庭を散歩すると、地面に茶色いベトベトの入った破裂したビニール袋が落ちていた。どうやら腸が弱く、鼻が敏感な宿泊客が夜中に窓から投げ捨てたようだ。

ここで面白い仲間に出会った。彼は花火に似た製品を専門にしていた。彼は中東での売り上げが多かった。彼はその地域と東南アジアの旅のヒントを持っていた。

悲惨なことに、このホテルはかつて処刑場だった。

残念ながら、ここでの滞在は長くは続かなかった。プライベートジェットで次のホテルに向かった。その途中でビールを勧められた。最初はあまり飲みたくなかった。でも、次のビールを飲むまでには長い時間がかかると思ったからだ。なぜか、このフライトでは少し不安を感じた。

最悪だったのは、きれいなスチュワーデスがいなかったことだ！スチュワーデスがまったくいない！半ダースの男だけ。当然、これは大きな失望

だった。

私は警備の甘さに気づき、コックピットを襲撃してパイロットを制圧できるかもしれないと思った。一瞬、誘惑に駆られた。国際問題に発展しかねないからだ。しかし、私はそれを思いとどまった。虚栄心かエゴか。

私のデンマーク最高裁引渡裁判

このゲームショーの舞台は、デンマークの連邦最高裁判所である。この裁判所は、ドイツが要求している米国の新聞社、つまり私の身柄引き渡しを決定しなければならない。

検察官」は身柄引き渡しを主張する。彼は、問題の新聞には時折、この国の法律に違反する内容が含まれていると主張する。

弁護側は次のように主張する：

まず、この新聞に書かれていることが実際にデンマークの法律に違反するかどうかは疑わしい。仮にそうだとしても、この新聞はアメリカで発行されているのだから関係ない。米国の法律では完全に合法であり、憲法修正第1条の下で明確に保護されている。

第二に、引き渡し先の刑罰がこの国よりもはるかに重い場合、国内法は引き渡しを禁じている。デンマークでは、この種の「犯罪」は通常、罰金刑で済まされる。これまでの最長実刑判決は2カ月だった。しかし、ドイツでは5年である！

第三に、国内法でも国際法でも、政治的な事件での身柄引き渡しは禁じられている。前例がある。エジプトのアンワル・サダト大統領暗殺に関与したとして告発された人物は引き渡されなかった。デンマークの最高裁判所は、この事件が「政治的」とであるという理由で引き渡し要求を却下したのである。今日、デンマークの最高裁判所で審理されている事件は、明らかに政治的なものである。したがって、身柄引き渡し要求は却下されなければならない。

誰が勝つのか？

デンマーク最高裁が身柄引き渡しを支持する判決！この事件は「政治的なものではない」と主張！

デンマークの主要メディアはこの茶番を嘆いている。外国政府の圧力に弱い国であることを裏付けている。

なぜこのようなことが起こるのか？

デンマークはドイツから強い圧力を受けている。アメリカ政府はこの圧力に対抗するために何もしない。それどころか、米政府高官が公に米国の中立性を表明している！これは、米国がこの米国の新聞社の身柄引き渡しに反対していないという明確なシグナルである。だから最高裁は降伏し、政治的判断を下すのだ。

これは非常に危険な前例となる！これはすべてのアメリカ人に対する脅威だ！

ドイツでの投獄

私は地元のホテルがこぞって私を指名するほどの人気者だった！1995年から1999年にかけて、私は有給休暇を4つの異なる施設で過ごした。

ホテル #1A - ダンジョン ハンブルク 1995

プライベートジェットが着陸したとき、私はその歓迎ぶりに感動した。新居までエスコートしてくれる車が何台も待機していたのだ。私は装甲リムジンで移動した。安全対策として、ブレスレットが付けられていた。私のためだけに。決してスタイリッシュとは言えず、きつく感じられたが、私は感動した。

対照的に、次のホテルは期待はずれだった。暗くて陰気だった。幸い、私はそこに1日ほど滞在しただけだった。後で知ったことだが、親友のクリスチャン・ヴォルヒも数年前にそこに泊まっていた。私の仲間内では、「みんなで集まってノートを見比べれば、この国のすべてのホテルについて一冊の本が書けるだろう」という冗談があった。格付けだってできる。

ホテル #1B - トランジット・ホテル ハンブルク 1995

別の建物ではあるが、この仮ホテルまたはトランジットホテルは、公式には同じホテルの一部とみなされていた。ホテル#1Aよりは間違いなく良

かったが、最初の2つほどではなかった。私はここに1ヶ月ほど滞在した。

ホテル #2 - 最高セキュリティ ハンブルク

ここは興味深いホテルのひとつだった。地下のシャワールームは処刑室だった。

最も重要なのは、ホテルの中で最も食事がおいしかったことだ！

欠点は暖房の効きが悪かったことだ。

私は平穏と静寂が好きなので、最大静寂棟の個室を与えられた。毎日23時間、部屋で本を読んだり、文章を書いたり、体操をしたりした。

毎日1時間、この棟の特別ゲストである私たち半ダースは、素敵な中庭を一緒に散歩した。当然、私たちはすぐに仲間になった。ローマでは...

スタッフの一人は、私たちのことを “ゲストの中のクレーマー” だと言っていました。私たちは光栄に思った！

ハイキング仲間もいた：

* ブラッキーはコロンビアでのビジネス経験が豊富な香辛料商だった。彼の話はアメリカの西部開拓時代を日曜学校のように思わせた。明らかに、彼は南米の旅に精通していた。商品は違えど、私たちの活動には多くの共通点があった。反対勢力」、すなわち「法の執行」に関するメモを見比べることは、とても勉強になった！

* ある若者は珍しい切手の収集家だった。彼のアグレッシブな獲得テクニックは、同業者を危うく殺すところだった。至近距離から後頭部に弾丸を撃ち込んでも、仕事を終えることはできなかった。年配で賢明なゲストたちは、役に立とうと、少なくとも2発は撃つことの重要性を強調した。

* 毛皮商が、ある “変態的” 行為のために自宅の地下にダンジョンのようなものを作った。何かがひどく間違っていた。その結果、酸の樽の中でぞっとするようなものが発見された。

* もう一人は、元共産党秘密警察の諜報員だった。ガールフレンドとの心

中は半分しか成功していなかった。彼女は彼の車のトランクで一巻の終わり。彼はここで丸くなった。

* もう一人の年配の男性は、大金持ちの男性を思いがけない休暇に親切に案内した。そして、諸悪の根源として広く知られている厄介なものを取り除くために、その男性の家族を助けるとまで申し出た。

致命的な誤解の数は、私たちの翼の人数よりも多かった。

交通違反者は私たちの翼に入れられることもあった。彼らは時々、一緒にいる仲間を心配していた。笑いながら、あるスタッフは自分の妻も心配していたと言った。現実には、まったく問題なかった。一般の有象無象とは違って、私たちのエリート集団は知的で理性的だった。それに、正当な理由もなく殺すのは失礼であり、悪いビジネスでもある！

フードサーバーは私たちの棟に住んでいたが、私たちと一緒に歩いたりシャワーを浴びたりすることはなかった。彼は人生の大半をホテルで過ごしてきた。ホテル滞在は1日だけだった。彼を拾った意地悪な女性は、どうやら彼に無理矢理自分を押し付けようとしたようだった！彼女は湖で丸くなり、彼はホテルに戻って丸くなった。

ある日、「検事補」とその助手が私の部屋を突然訪ねてきた。彼は手紙を捜していると言った。彼は以前それを見たことを覚えていたが、どういうわけか検閲をすり抜けていた。（彼は見つけられなかったが、後に私が見つけて破棄した）。

彼らが私の膨大な書簡を調べている間、私はベッドをドアの前に引きずり出し、私たち3人を部屋に閉じ込めることを考えた。そして彼にこう言うつもりだった：まず、あなたは私を“テロリスト”だと非難した。そして、愚かにもこんな窮地に陥った！今ここで2人を殺せば、テロリストであることを簡単に証明できる！- もちろん、実際にはそんなことはしていない！

このリラックスした環境でわずか1年過ごただけで、私はすぐに去ることになると知ってがっかりした。そんな私を慰めてくれたのは、他のゲストたちだった。

ホテル #3 - ラグジュアリーホテル ハンブルク 1996 - 1997

ここは最も素敵なホテルのひとつだった！古き良き時代の美しい壁画まであった！建物自体は古かったけど、暖房も近代的だった。私は2階にいたので、田舎のいい景色を眺めることができた。風車もあった！

敷地内には歴史的な意味があった。窓からは、古い強制収容所の最後の建物が見えた。第二次世界大戦中と戦後、*両陣営*によって使用された。もちろん、同時にではない。少なくとも、同じ用途では使われなかった。彼らは交互にゲストとホストを演じた。私の友人の父親はゲストだった。

ジムは特に良かった。正直に言うと、私は少しいたずら好きだった。例えば、他の仲間に「同じ重さを持ち上げられるかな？」と聞いて、片手で持ち上げて、自分が年をとって弱くなったことを残念がるようなふりをするんだ。ある時、ある若者が好奇心をそそられ、同じ重さを両手で持ち上げようとしたが無駄だった。とにかく、私の重量挙げ仲間の一人が、後に隣のホテルにも現れた。

ウェイトリフティングマシンの最大設定が私には低すぎると、同じエクササイズを片腕だけ、あるいは片足だけで行うように切り替えた。その頃には、すでにマシンを1台壊し、別のマシンでは鉄棒を曲げてしまった。

他のお客さんもいい人たちだった。誰一人、私に辛く当たる人はいなかった。

ヶ月ぶりに、私の部屋には良い鏡とその上の良い照明があった。初めて鏡を見たとき、醜い老いぼれが私を見つめているのを見て驚いた。明らかに、壁に穴が開いていたのだ。私は隣の部屋の誰かを見ていたのだ。すべては悪ふざけだった！

客の一人はフードサーバーとして働いていた。高価な時計を激安で手に入れるには絶好の場所だと言っていた。どうやら、新客の中には医薬品がどうしても欲しいという人もいたようだ。

数カ月が過ぎた頃、私はまた別のホテルに移ると聞いた。私はここを離れたくなかった。でも、なんと言えはいいのだろう。人気という重荷の一部なのだから。

ホテル #4 - 我が家のようなホテル ハンブルク 1997 - 1999

このホテルでの最初の2ヵ月は大きな失望だった！広いバラック風の部屋は騒音と煙に満ちていて、私の健康を害した。

ホテルのマネージャーは私のことがあまり好きではなかったと、上級レベルのスタッフが私にささやいた。待ち時間が長いのが不満で、私に八つ当たりしたのだろう。

私がバラックにいたとき、あるカラフルなルームメイトが次のような出来事を話してくれた：

私はこの間抜けが私を裏切ったことを知っていたので、復讐を決意した。サブマシンピストルを持ってバーに入った。彼の膝を狙い、弾倉を全部抜いた。そしてもう一発、もう片方の膝に撃ち込んだ。そして銃をテーブルに置き、座って警察を待った。弁護士は、私は明らかに彼の脚を狙っていたので、これは殺人未遂ではないと指摘した。最高刑は4年だった。私は2年だった。

この言葉を聞いたとき、私は新聞を発行した罪で4年の刑期を終えていた！アメリカで

私の所属する支部の中堅マネージャーと少し腹を割って話をした。私が彼と彼の同僚を友人たちに名指しで報告しようとしていることを伝えると、彼は顔を真っ青にした！報復を期待していたが、その日もその次の日も何も起こらなかった。

するとホテルのスタッフが部屋にやってきて、ついてくるように言われた。驚いたことに、彼は私をホテルの別の棟に連れて行った。その棟の支配人のオフィスに入ると、彼は私に言った：君は私の棟に移される。君が要求し、私が許可する力があれば、何でもするよ！

なんて奴だ！

この棟での生活は、あのバラックでの生活よりずっと良かった！

私が滞在していた間、ドイツのテレビがこの棟で刑事番組のシーンを撮影したこともあった。

その後、私は真新しいクリーンルームのある新築の増築棟に移された。春になると、窓の外の中庭に小さな木が花を咲かせるのが見えた。さらに、私には相変わらず親切なウィング・マネージャーがいた。

休暇中ずっと、私は世界中の親しい人たちと文通をした。私は、（趣味のいい）赤ん坊のヌード写真を女性のペンフレンド全員に送って感謝の気持ちを表した。私の名前の下には、通常の「政治犯」ではなく、「セックスシンボルで官僚」という肩書きをつけた。

ある日、上級マネージャーが突然、私に対して正式な処分を下すと脅してきた。なぜか？ある弁護士に宛てた手紙の中で、私が自分のことを「政治犯」と呼んだからだ。彼は、政権に政治犯はいない、だからこの主張は中傷だと主張した！

妥協が成立した。彼は私の出版物の検閲官のままで、いつも没収されていた。しかし、私のナイスガイのウイング・マネージャーは、私のすべての通信文の検閲官になった。

ところで、その出版物のひとつは囚人支援団体のものだった。この同じ囚人支援団体は冷戦を生き延びたが、後に共産主義崩壊後の“民主的”政権によって禁止された！

多くの友人やシンパがホテルに訪ねてきてくれた。引退した警部まで！

もちろん、私のお気に入りには魅力的な若い女性たちだった。ある時、3人の女性が私と同席した。彼女たちの名前はリサ、ウスキ、そしてベルベルだった。面会室の他の客は嫉妬していた。それは私の自尊心にとって素晴らしいことだった。

小切手にキスをする機会が訪れるたびに、私は時々間抜けなふりをして若い女性の唇にキスをした。（舌は使わない！手も出さない！運を押したくなかったからだ。それに、若い女性たちは親切に訪ねてきてくれて、私の気分を盛り上げてくれた。彼女たちに残酷で異常な罰を与えたくはなかった）。彼女は少し照れたが、何も言わなかった。年寄りには年寄りの良さがある。

クリスタにやっと会えたこともとても嬉しかった。このキューネンの親友は、ナショナリストの囚人支援組織でも主導的な役割を果たしていた。

ウェイトルームは使わなかった。でも、自分の部屋でエクササイズはした。腕立て150回、腹筋1,100回、膝の深屈伸2,500回が日課だった。

その後、私は50代半ばの後半に、毎日1セット300回の腕立て伏せでピークを迎えた。ウェイトリフティングは50代半ばでやめていた。150ポンドのカールはできた。

また、つま先立ちになり、腕を横に伸ばして床と水平にし、拳を1万

4000回握ったり解いたりもした。この運動だけで45分かかった。これは問題なかった。時間はたっぷりあった。それに、強い指は近接戦闘やクライミングに役立つ。

通信教育と運動は別として、私は多くの時間を読書に費やした。主に歴史と素人向けの理論物理学だ。私は小宇宙と大宇宙に魅了された。私が取り組んだパズルのひとつは、既知の宇宙に存在する原子の数だった。本の中で役に立ちそうな数字に出会うたびに、それを暗記した。簡単すぎないように頭の中で計算した。最終的には10の70乗th。

私が興味をそそられたもう一つの問題は、他の惑星に知的生命体が存在する可能性だった。そしてさらに重要なのは、彼らと有意義な接触ができる確率である。

結局のところ、知的でまともな生命体が人間と関わりを持ちたいと思うだろうか？もし私が彼らなら、絶対に関わりたくない。あなたならどうする？

もちろん、他の毎日の“頭の体操”も続けた。物理的な財産を奪うのは簡単だが、頭の中にあるものを盗むのは難しい。(私は数カ月間、いくつかの通貨を隠しておくことができた)。

残念ながら、この地上天国は長くは続かなかった！

若い頃、私と兄弟の一人が誤って毒殺されたことがあった。彼は集中治療室にいた。一命は取り留めたものの、長期的な影響でいつか死ぬかもしれないと言われた。彼が中年になったとき、その通りになった。私の場合はそれほど深刻ではなかった。しかし、彼が亡くなったときと同じ年齢になったとき、突然、同じ症状が劇的に現れ始めた！

私は命の危険を感じた！

結局、私は病院で検査を受けた。結果が出ると、私はホテルのドクターを訪ね、結果を聞いた。彼女は長い間、報告書を見ていた。無言で。とても真剣な顔で。そして彼女は2つのことを私に告げた：

まず、すべてが順調だった。

第二に、彼女は医学的な理由で私の早期釈放を正式に推薦していた。

うーん...

しかし、ホテルの経営者は親切にも私を泊めてくれた。どうしても泊まりたいとさえ言った。結局、私にはまだ1年以上の休暇が残っていた。

何はともあれ、これは本当に終わりのない休暇になるかもしれない

と思った。だから、この状況で唯一論理的なことをした：

愛する人たちに最後のお別れの手紙を書いた...

しかし、生死は私の最大の関心事ではなかった。政府が運営するホテルで私が死ねば、反体制派の仲間たちはそれが殺人ではないとは決して思わないだろう。そうなれば、エスカレートして本当のテロが起こるかもしれない。それは私が最も望まないことだった！

もちろん、まだホテル4番のマキシマム・セレニティ・ウィングにいた頃に交わした次のような会話も覚えていた。

**生きてドイツを去ることはできない！
ドイツは決して破壊されることはない！**

彼は私の目の前に立っている。私の目を見て。しばらくの間、私は今この言葉を発した男の顔を観察する。隠された意味の手がかりを探しても無駄だった。

彼は真剣なようだ！

大統領の仕事のために死ぬことが許されるのは名誉なことだ！私は反抗的に撃ち返す。（大統領の仕事のために死ぬことが許されるのは名誉なことだ！）。

今、明らかに驚いているのは彼だ。

本当に？

当然だ！（ナチュリッヒ！）

彼はがっかりした様子だ。そして振り返って部屋を出て行く。

私は2つの疑問について考えた：

まず：彼は本当に真剣だったのか？それとも演技がうまいだけ？

第二：もし私が死刑執行人と対面し、死が数秒後に迫っていることを知ったとき、私の最後の言葉は何であるべきか？

人は誰でもいつかは死ななければならない。私はいい死に方をしたい。自分の死に意味を持たせたい。できれば何かを成し遂げたい。先祖と合流するとき、頭を高く掲げて彼らの目を見ることができるようになりたい。



NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物

多くの言語の何百冊もの本

多くの言語の何百ものウェブサイト

